

教育学部・国際協力推進プラットフォーム連携プロジェクト

『カンボジア王国における国際教育協力事業
— カンボジア王国 Siem Reap 州教員研修
支援のモデル構築に関する研究 — 』

現地活動実施期間: 平成27年2月15日～22日

○現地活動実施者
和泉研二、重松宏武(理科教育)、石井由里(国際理解教育)

○学生ボランティア
野澤聖也(小学校教育コース4年)、吉水健太(理科教育選修3年)、
溝口友里(理科教育選修2年)、井上篤嗣(技術教育選修2年)、
山村友梨紗(小学校教育コース2年)、

実施目的(ミッション)

国際化・グローバル化は、山口大学の重要なテーマの一つであるという認識の下、

- 1) 教育学部が有する長年の学校教育や教員養成の知識や経験を活かして、アジアの発展途上国の学校教育、教員養成に資する支援活動を実施し、
- 2) 現地での活動を通して、国際貢献、国際理解、日本の教育の理解等、広い視野から教育の在り方について考えることができる学生を育成する。

海外に山口大学の生きた学びのフィールドを創設


活動計画(ビジョン)

第1段階:
途上国の教育について情報収集を行うとともに、現地に赴き現状を観察分析し、課題を発掘。

第2段階:
現地の状況に適した教員研修支援の在り方を探るため、現地小学校等にて支援の試行を実施。

第3段階:
1) ニーズに則した教員養成、学校支援活動の実施
2) 国内外の行政機関、JICA、NGO等と連携をはかり、教育に関する国際支援プロジェクトを実施。

活動場所とカンボジアの教育の背景



カンボジアの教育事情(歴史的経緯)

- ・1975年からの3年間のポル・ポト政権下で、総人口の約1/3が殺害。
- ・人的にも施設的にも教育基盤が崩壊。
- ・ポル・ポト政権後、ベトナムの支援で誕生したヘン・サムリン政権は、一から教育制度を立て直す必要があった。人材難のため、当初は、読み書きさえできれば先生になってもらったことも少なくない。
- ・1991年のパリ和平条約、1992年からのUNTAC駐留を経て、急速に発展。
- ・国連や先進国からも多くの支援を得ながら、教員の質や教育システム、教育内容の充実・再構築に取り組んでいる。

これまでの活動(関連する活動を含む)

第1段階: 調査
H20年度: 初の現地調査の実施
(阿部弘和、和泉研二、小粥良)
ベトナム(ホーチミン)
カンボジア(シェムリアップ、プノンペン)
ワット・ボー小学校、PTTC(教員養成学校)、
JICA、RTTC、プノンペン大学、国立教育研究所
H21年度: 現地調査の実施(石井由里)
H22年度: カンボジアより小学校関係者3名招聘
(シェムリアップ州ワット・ボー小学校より)

これまでの活動(関連する活動を含む)

第2段階: 初の試行+調査
H22年度: 授業および講習会試行、方向性の模索
(1) 理科授業の実施(ワット・ボー小学校)
(2) 学校保健講習会の実施(ワット・ボー小学校)
(3) カンボジアの学校教育事情の調査
チョンクニエス村小学校、同保健センター、
トルロピアン・宮下小学校、パックパン小学校、
ササースダム群中核学校、スピッター小学校、
ワット・チャオ小学校
和泉研二、友定保博、海野勇三、阿部弘和

これまでの活動(関連する活動を含む)

第2段階: 調査+試行

H23年度: **試行の充実化・今後の方向性の確定**

- (1) 学校保健講習会の実施(ワット・ポー小学校)
- (2) 新しく正課となった体育授業の実施
(ワット・ポー小学校; 現職小学校教員初参加)
- (3) 山口大学独自の支援拠点の探索
(チョンカル小学校初訪問)
- (4) カンボジアの小学生の生活実態の調査
- (5) カンボジアの大学生との交流と意識調査
(プノンペン大学; 学生初参加)
- (6) 日本の支援活動実態調査及び今後の方向性を調査(PTTC、JICA、日本大使館、NGO法人等)
(和泉研二、海野勇三、阿部弘和、田中大輔、林秀晃)

24年度からの活動方針について
～3つの支援活動と3つの拠点～
限られた資金と人材の焦点化

1. 教員養成への支援
シムリアップ教員養成学校(PTTC)との連携
H24: 理科授業と学校保健講習会を実施。
2. 現職教員・学校現場への支援
ワット・ポー小学校の他、山口大学独自の拠点を確立(**チョンカル小学校**を拠点とした学校群)
H24: ワット・ポー小学校にて理科授業および学校保健講習会を実施。
チョンカル小学校にて打合せを実施。
- (3. 日本での研修の支援
PTTC、ワット・ポー、チョンカルの関係者の招聘)

平成25年度の活動

ボランティア学生との協働による
「科学の祭典 in カンボジア」の実施

場所:
PTTC、ワット・ポー小学校、チョンカル小学校

実施日(各校2回実施):
2月18日(PTTC)、19日(ワット・ポー小学校)、21日(チョンカル小学校)

実施内容(担当):
静電気(清家)、音の伝わり方(木下)、大気圧(本田)、酸と塩基(野澤)、手作り顕微鏡(平田)、光の伝わり方(石井、和泉)、振動(和泉)、複眼のつくり(和泉、阿部)

実施方法:
各々でブースを設置。児童・PTTC学生は自由に移動。

H25年度の主な成果

- ・PTTCでの活動から、PTTCの教員志望学生との協働による「科学の祭典」が可能との感触を得た。(自主的に実施したいという意識はまだ薄い。)
- ・支援の拠点校として、都市部のワット・ポー小学校のみならず、**田舎のチョンカル小学校でも「科学の祭典」を実施**することができた。
- ・参加学生の意識改革に教育的効果が認められた。
- ・帰国後の報告会を通して、**国際理解・国際支援に関する学生や児童の理解、興味関心**を深めることができた。

H26年度の計画「科学の祭典」を中心に

1. 教員養成支援
 - ・引き続きPTTCにおいて「科学の祭典」を実施する。
 - ・**校長より要望のあった学生・教員向け研修会を行う。(現地での定着支援を目指す)。**
2. 現職教員支援
 - ・引き続き、ワット・ポーおよびチョンカル小学校において「科学の祭典」を行う。
 - ・**ワット・ポー小学校では、校長から要望のあった教員向け理科研修会も実施(現職教員用)。**
3. 新たな視点
 - ・参加学生の多様化(他教室学生の参加促進)
 - ・生徒指導的視点の導入(家庭訪問)
 - ・新たな現地のニーズの掘り起こし(他教科への波及)

平成26年度の活動

ボランティア学生との協働による
「科学の祭典 in カンボジア」の実施 パート2

○場所:
シムリアップ教員養成学校、ワット・ポー小学校、トロオンドン小学校、チョンカル小学校、

○実施日(各校2回実施):
2月17日(PTTC)、19日(ワット・ポー小学校)、21日(チョンカル小学校)

○実施内容(担当):
静電気(溝口)、音の伝わり方(吉水)、振動(井上)、気体の体積(野澤)、慣性(山村)、浮力(和泉)
各々でブースを設置、児童・PTTC学生は自由に移動。

シムリアップ教員養成学校(PTTC)での実践



ワットポー小学校での実践



H26年度の主な成果

- ・PTTCの教員志望学生との協働による「科学の祭典」及び研修会を実施することができた。
(自主的に実施したいという学生も出て来た。)
- ・都市部のワット・ポー小学校、農村部のチョンカル小学校に加え、新たにシムリアップ近郊の貧困地域にあるトロンオンドン小学校で実施できた。
(学校の環境によらず実施可能)
- ・家庭訪問の実施
(生活・家庭環境の理解、教育支援の在り方)
- ・参加学生の意識改革、グローバル・マインドの育成

15

これからの課題と展望

現地支援活動について

- 教員養成支援
 - ・PTTC学生との協働による「科学の祭典」の定着を図る。
→PTTC学生にもブースを企画してもらう。
- 現職教員支援
 - ・ワット・ポー小学校での「科学の祭典」及び現職教員用研修会の実施。
 - ・チョンカル小学校他での「科学の祭典」の実施
→教科書との関連性を重視し、授業での活用を促す。

参加学生への支援・指導について

- ブース及び研修会の事前準備への支援
- 家庭訪問の定常化
- 報告会の実施(授業、ちゃぶ台、附属等の活用)

16